

# 「滑走路管理不十分」

7空港 タイヤのゴムたまり 検査院指摘

羽田や仙台など7空港で、滑走路に航空機のタイヤのゴムがたまり滑りやすくなっているにもかかわらず、空港側が適切な対応を取っていないことが

会計検査院の調べで分かった。検査院は国土交通省などに対し、空港施設を適切に管理するよう改善を求めた。

2年9月時点で、4本ある滑走路のうち1本について0・33になっていた部分があった。13年8月に実施した再測定で摩擦係数が0・20まで低下していることが分かり、同12月までに除去した。

## 「高く」

## 幅も拡大

の上部の幅を3〜4メートルから6メートルに、底辺も約30メートルから約50メートルに拡幅して強化する。また堤防に水が浸透するのを防ぐため、川側の斜面に遮水シートを敷いてコンクリートで覆う。現場は仮堤防が設置されている。【去石信一】

全国22空港の点検状況を調査した結果、羽田、釧路、函館、仙台、高松、長崎、熊本の7空港で、滑走路の表面や溝にタイヤのゴムが付着し、国の定める摩擦係数の基準値（0・44）以下になっていたことが判明した。係数が基準値以下だった場合、国の指針で、ゴム除去などの処置を検討するとされているが、各空港事務所は約1年〜1年半、除去していなかった。

羽田空港では201

国交省は運航に支障があるような場合は対応しているとするが、国内航空会社のパイロットらでつくる「日本乗員組合連絡会議」の館野洋彰議長は「摩擦係数が低下するとオーバーランの危険性が高くなる。基準値があるのにそれを見逃して許容する姿勢こそが問題」と批判している。

国交省の担当者は「検査院の指摘は真摯に受け止めて適切に対応していく」と話した。

【武内亮、夫彰子】